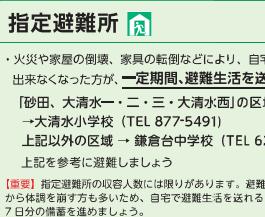


緑区大清水学区

災害時避難行動マップ

～絆・心をひとつに～

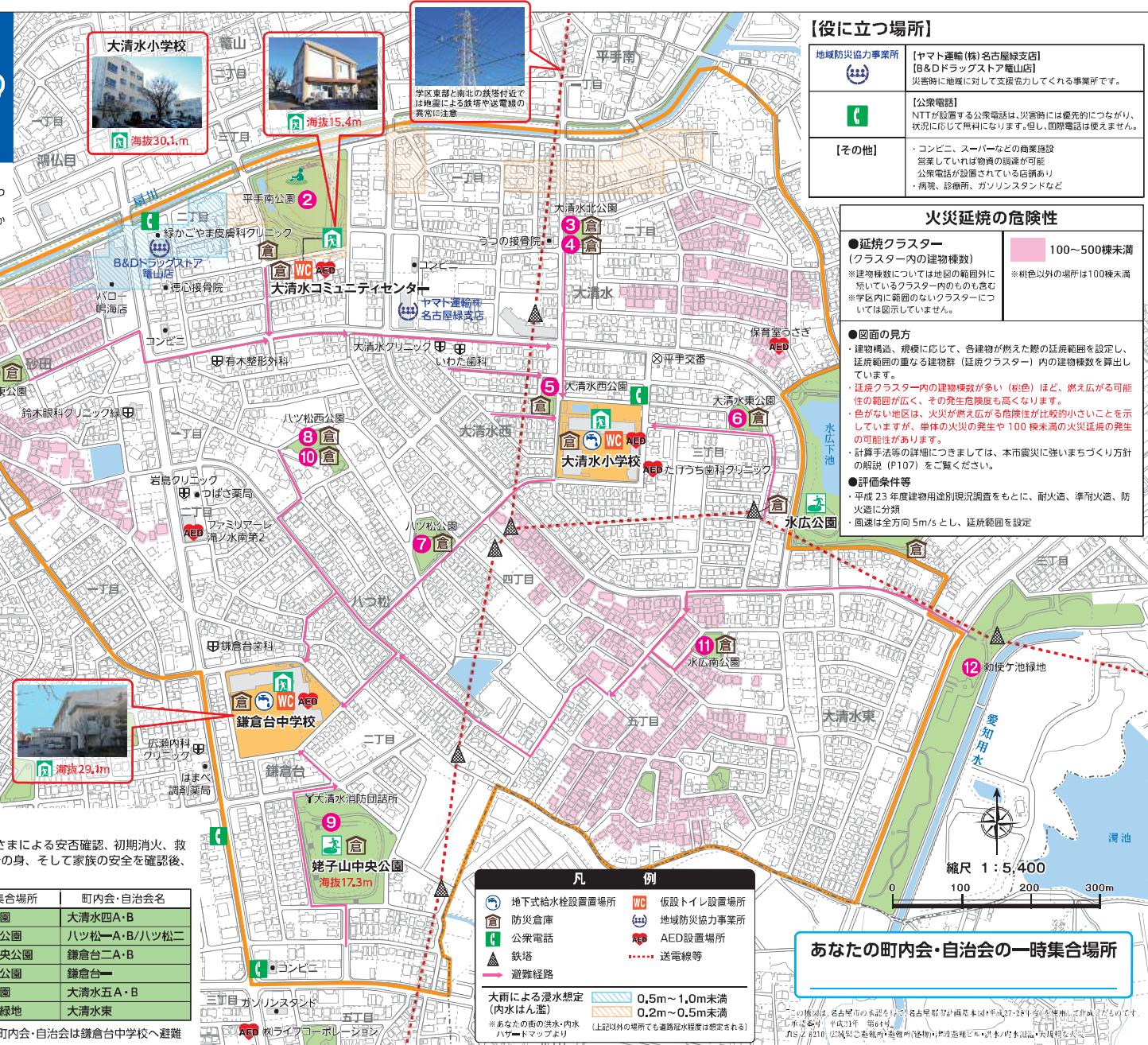
この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、大清水区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したもので、この避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。



【各町内会・自治会の一時集合場所】

災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さまによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。また、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。

番号	一時集合場所	町内会・自治会名	番号	一時集合場所	町内会・自治会名
①	砂田東公園	砂田一A・B	⑦	八ツ松公園	大清水四A・B
②	平手南公園	砂田二A・B	⑧	八ツ松西公園	八ツ松一A・B/八ツ松二
③	大清水北公園	大清水一A・B	⑨	姥子山中央公園	鎌倉台二A・B
④	大清水二A・B	大清水二A・B	⑩	八ツ松西公園	鎌倉台一
⑤	大清水西公園	大清水西	⑪	水広南公園	大清水五A・B
⑥	大清水東公園	大清水三/大清水三A	⑫	勤使ヶ池緑地	大清水東



緑区大清水学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、多くの地域で震度6弱、扇川沿いの砂田一丁目・二丁目、大清水一丁目付近、大清水小学校東側や鎌倉台中学校東側の一部地域では震度6強の揺れが想定されます。まずは、身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止対策などの耐震対策に努めましょう。また、地図面にあるように、木造の建物が多くつた建物が密集している地域では、火災による延焼で建物が倒壊し道を塞ぐなど被害が拡大する可能性があります。また、風水害の場合においても、砂田・大清水の扇川沿いの一部地域では、0.2m~1m未満の浸水(内水はん濫)が想定されています。全体に海拔10m~50mと土地に高低差があるため、避難の際には移動が難しい方への配慮が必要です。これらの地域特性を踏まえ、適切な避難先と、安全な避難経路をあらかじめ考えておきましょう。
<鉄塔と電線(送電線・高圧線)について>
一定の耐震性があり過去の大規模地震でも地震動による倒壊はなかったものの注意は必要です。また、切れた電線は感電の恐れがあるため、絶対に近づかないようにし、高圧線の落下にも注意しましょう。

地震発生! 災害時の対応



地震発生! そのときどうする?!

揺れた!

身を守ることが最優先



●身の安全の確保

頭と首を保護し、転倒や落下する恐れのあるものから離れ、身を守りましょう。



提供: 効果的な防災訓練と防災啓発図書会

▷ 居間や寝室では…

家具やテレビなどが倒れたり、飛んでくることもあります。また、ドアが開かなくなることがあります。

★机の下などに潜り身を守る。寝ているときは、布団や枕で頭や首を守る

★ドアや窓を開けて脱出口を確保

★ガラスの破片などで怪我をする恐れがあるので、機中電灯や厚手のスリッパを用意しておく

▷ 台所では…

食器棚が倒れる、もしくは中の食器が飛び出します。また、冷蔵庫などの大型家電は凶器になります。火災が発生することもあります。

★可能なら火を消すが無理はせず、揺れがおさまってからでも良い
★出火した場合は、直後なら初期消火
★初期消火が困難な場合はすぐに避難
(可能であれば部屋の窓やドアを閉める)

揺れがおさまった

家族や隣近所の安否確認、
家の被害状況を確認

●自宅にいる場合

- ・怪我をしないように靴かスリッパを履く
- ・出入り口の確認
- ・家族の安否、家屋の被害状況を確認し、無事の場合は安否確認タオル(黄色のタオル)を掲出
- ・隣近所の安全を確認

▷ 外出先にいる場合

- ・帰宅困難になったらむやみに移動を開始しない(駅には近づかない)
- ・勤務先や学校などの安全な場所にとどまり情報収集
- ・家族の安否、自宅の様子を確認道路や交通機関が復旧したら帰宅開始

▷ 正しい情報の入手

- ・ラジオやスマートフォンなどから正しい情報を入手し、次の行動に備える



家屋倒壊・火災の危険あり!

※指定緊急避難場所に避難

●安全に避難するための8つのポイント

- ①ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす!
- ②非常持ち出し品を携行
- ③玄関先に安否情報を残す
- ④原則徒歩!
- ⑤近所への声かけと集団での避難を
- ⑥要配慮者の避難誘導
- ⑦木造住宅密集地やかけの近く、鉄塔・電線の付近は避けて!
- ⑧二次災害に気を付けながら人命救助の手伝いを!



台風や集中豪雨による避難情報が発表・発令された場合は、浸水状況を確認の上、安全な避難が可能であれば、隣近所に声掛けを行なながら、組合で避難します。避難が危険な場合は、上階や安全な建物等に避難(垂直避難)しましょう。

※避難情報の発表・発令前に避難する場合は、事前に区役所へ連絡して下さい。

**公園などの一時集合場所へ!
状況の把握**

地域には、町内会・自治会単位に結成された**自主防災組織**があり、災害時には公園などに本部を立ち上げ、地域の皆さんから被害情報を収集し、初期消火・救出・救護等の活動を行っています。地域の被害を小さくするため、自主防災組織の活動にご協力をお願いします。



指定緊急避難場所をご存知ですか?

命を守るために、災害の危険からまずは逃げるための場所で、災害の種類ごとに異なります。大規模火災や津波被害、土砂災害など、一時集合場所では安全が確保できない場合は、速やかに指定緊急避難場所へ避難しましょう。(詳しくは「ナゴヤ避難カドイ」を参照)

災害の危険解消

自宅での滞在が可能か確認

○ 在宅避難を!
X 指定避難所へ!

在宅避難の場合

避難所生活は環境の変化により身体的精神的に大きな負担がかかります。可能な限り、在宅避難を検討しましょう。なお、食料や生活物資の支援を受けるため、お近くの指定避難所で、在宅避難者名簿に登録しましょう。

自宅に住めない状況とは

家屋が倒壊、若しくは余震などで倒壊する恐れがある、家中に物が散乱し危険、電気・ガス・水道が停止し生活できない、火災や土砂崩れの危険が迫っている場合など。



避難生活のために備えたいモノ

水 食料

水を始めパックご飯やレトルト食品、缶詰など食べ慣れた物を中心に**7日分程度**を備えましょう!

保存がきく食品(自分が食べやすいもの)

常備薬

飲料水(ペットボトル 1人1日3リットルが目安です)

内、飲料水(1人1日1.5ℓ程度)を始め、乾パンやビスケット、アルファ化米など軽い物を中心に**3日分程度**を非常持ち出し袋へ!



ヘルメット 車手 ロープ マッチ 子供の電池 懐中電灯

避難する際に持っていくもの

■ 防災用品

携帯ラジオ

ヘルメットや
防災ずきん

軍手

マスク

■ 貴重品

現金(小銭も必要)

預(貯)金通帳の写し

健康保険証・免許証の写し

カード類

認印・印鑑など

■ 照明等

懐中電灯(電池含む)

マッチ・ライター

■ 食器類

はし・スプーン

紙皿・紙コップ

■ 医療用品

マスク

三角巾・包帯・ガーゼ

ばんそうこう

消毒薬

ウェットティッシュ
(ティッシュ)

お薬手帳の写し

体温計

■ 衣料品

衣料(着替え)

タオル(大小2種類)

■ 便利用品

筆記用具

新聞紙

携帯用トイレ

ゴミ袋

キッチン用ラップ

使い捨てカイロ

雨具

手動携帯電話充電器

スリッパ